

藤並の森

Vol.45

(作家)



▲オープニングセレモニーでテープカットをする瀬戸内寂聴さん

リレー随筆

「寂庵へよつこそ」

瀬戸内寂聴
せとうちじやくちょう

ペン一本にすがって脇目もふらず生きてきた八十五年の生涯は、またたく間に感じられます。

いつの間にか、文筆生活は五十年を迎えて、その文学の仕事によって、思いもかけず文化勲章までいただきました。

長生きも、受章も、私の人生の予定表にはないものでした。

この度、まわりの方々が、それを祝って記念に展覧会を開いて下さることになりました。源氏物語現代語訳の完成した時も、やはり記念の展覧会を催していただきました。

大変多くの方々にお越しいただき、喜んでいただきました。

あれから、十年の歳月が流れています。

生きている間に、このような大展覧会を開いていただける幸せを噛みしめております。私としてはただただ有難く、ひたすら、

ご来場の皆々様がお楽しみいただけるようになると祈っております。

これを機会にまたまた元気を出し、私の仕事に取りかかりたいと思つております。

巡回も二年目に入り多くの作家を輩出している高知での展覧会が最後となりました。是非、みな様にご覧頂ければと願つております。

展覽
会紹介
Exhibition

瀬戸内寂聴の世界

「生きることは愛すること

「瀬戸内寂聴の世界～生きることは愛すること～」への誘い

今回の展覧会は、昨年のプレ企画「瀬戸内寂聴展～人と文学の軌跡を辿る～」に統いて、高知で瀬戸内寂聴さんをご紹介する二度目の展覧会となりました。

昨年は、徳島県立文学書道館のご協力のもと、寂聴さんの主な作品やその執筆を支えた多くの作家との交流を中心にして紹介しました。会期中は約二千人の来館者があり、会場はいつもファンの熱気に包まれていました。今回は、寂庵のご協力のもと寂聴さんの全貌に迫る内容となっています。

五月十二日（火）の展覧会初日には、寂聴さんを当館にお迎えしました。この日のスケジュールは、次の通り。午前九時からは、文学館の企画展示室内での共同記者会見。午前十時からは、開展式における二十分程のご挨拶とテープカット。その後の時間を利用し、ゲラ原稿の校正。

午後二時から三時三十分までは「瀬戸内寂聴の世界」記念講演会。そして、夕方、ハードな一日を終えた寂聴さんは、笑顔で



▲「寂庵」の書斎で執筆中の寂聴さん

昨年は、徳島県立文学書道館のご協力のもと、寂聴さんの主な作品やその執筆を支えた多くの作家との交流を中心にして紹介しました。会期中は約二千人の来館者があり、会場はいつもファンの熱気に包まれていました。今回は、寂庵のご協力のもと寂聴さんの全貌に迫る内容となっています。

今年五月十五日、満八七歳になられました。マイクを持つた寂聴さんは「人間が生きる究極の目的は愛だと思う」。愛し合った記憶が生きた証拠になる」と語りかけ「今を一生懸命、切に生きることです」とも話されました。全てを受け入れ、一瞬一瞬を大切に生き、決して弱音を吐かない。楽屋で「随分、楽になつたのよ」と静かに愛おしそうに

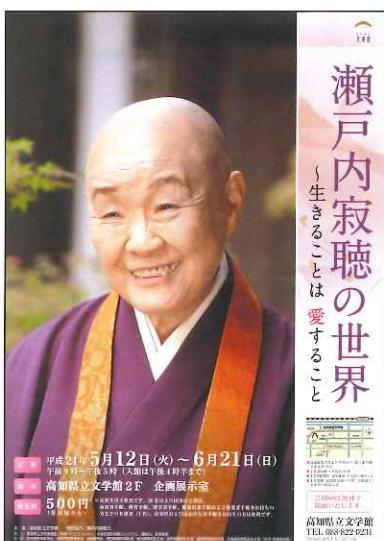
ご自分の膝をさすつている姿に「生きることは愛すること」の意味を噛みしめた私でした。

また、寂聴さんは、講演の中でも高知県が多くの作家や漫画家を輩出していることにふれ「高知からは、素晴らしい先人が沢山でている。未来は明るい」。そして「高知は、文学の土壤が豊かである。それを後世に伝えていくのがみんなの使命。若い人たちには是非読んで

平成21年
5月12日(火)
▼
6月21日(日)
企画展示室
観覧料500円



▲寂聴さん手作りの作品／土仏



会
紹
介

Exhibition

瀬戸内寂聴の世界 ～生きることは愛すること～



▲ 直筆原稿／源氏物語



▲ 覚悟の得度式／有髪最後の色留袖と嵯峨錦の帯

小説を書き続けました。そして、作家生活五〇周年の節目である二〇〇六年には、これまでの功績が認められ文化勲章を受章しています。

この混沌たる時代に「知ろう」としないことは悪である。行動を起こさないことは認めることである。」と常に「行動すること」を自らに厳しく課し、一方で、日々の暮らしの細やかな情感を、

寂聴さんならではの言葉で表現し、また、法話でみられるように仏教者として「切に生きるよろこび」を伝える寂聴さんの姿を目にしたファンの方たちは、涙あり、笑いありの時間に満足されたようでした。今回の展覧会では、寂聴さん手作りの土偶、源氏物語現代語訳の原稿、思い出の着物などを含め、約三百点の資料と映像により「寂聴さ

んのすべて」を華やかにご紹介しています。また、六月九日には、得度式に着た有髪最後の色留袖と嵯峨錦の帯、国際ノーノ賞受賞の賞状などの数点を展示入替します。

この機会に、是非、特別企画展「瀬戸内寂聴の世界～生きることは愛すること」をご覧いただければと願っております。

(学芸課／津田加須子)

◆関連企画のご案内◆

☆朗読の会 「瀬戸内寂聴の『源氏物語』」

- ・日 時：6月20日(土)午後2時～4時
- ・場 所：高知県立文学館1階ホール
- ・内 容：カルチャーサポーターのみなさんによる朗読
- ・入場料：無料

☆源氏香をきく

- ・日 時：6月14日(日)午後2時～4時
- ・場 所：高知県立文学館 1階ホール
- ・内 容：瀬戸内寂聴展の関連企画として開催します。『源氏物語』に関連した香を焚き、香りを楽しむイベントです。(講師：香道古心流師範 藤本淑峰氏)
- ・入場料：(要)観覧チケット
- ・定 員：先着50名
- ・申込方法：電話または文学館受付にてお申し込みください。

☆展示解説

6月13日(土)20日(土) 各日とも午後1時30分～(30分程度)

生誕一四〇年

大町桂月

～酒と旅と自然を愛した文人展



▲書斎で寛ぐ桂月

今年生誕一四〇年を迎えました。高知市出身の文人、大町桂月（一八六九～一九一五）が五月五日、一二五日間の会期を終えました。

今回の展覧会は、桂月の「令孫や終焉の地青森県十和田市」の蔵温泉や長女愛さんの嫁ぎ先千葉県柏市にある弥惣治文庫や日本近代文学館など、県内外の桂月ファンの皆さまのご協力をいたしました。

「文草は人格なり、己を欺くなれ」大町桂月の言葉です。

桂月は、漢語や雅語を交えつつ読みやすく整えた「美文」の創始者として注目を浴びました。出版社「博文

館」では高山樗牛と並称され硬派の評論家として人気を博し、退社後は酒と旅と自然を愛し、全国を行脚し、多くの紀行文を残しました。

桂月の碑は、全国に八四基（現在も調査中です）建てられており、その半数が青森県にあります。

高知県内には、生誕地碑を入れる

と九基の碑があり①「高知県内の文学碑を訪ねる」文学散歩、②「高

知市内の碑を中心に約七キロを歩く健脚コース」の文学散歩、そして

高知観光の協力で、青森県蔵温泉

を中心とした③「県外の文学碑を訪ねる」文学散歩です。いずれの

参加者も、桂月との出会いを楽しんでくださいました。

最後になりましたが、展覧会を終え、「令孫からは「大町桂月の資料充実のために」と多くなるご寄付を頂きました。また、多くの

皆さまより桂月関連の資料をご寄贈いただきましたこととなりました。

星霜を超えて、本県の独特の風土が育んだ文学者達の足跡は

実際に素晴らしいものがあります。「来館者に何を伝え、世代を超えて親しまれ、活用される文学館のあり方とは…？」特に、成長盛り

の若い人達の「心の栄養」にとの思いもあり、県内の大学や高知市内の県立高校（八校）に出向き校長先生等との意見交換等も行い、

自分なりにその命題の方向性を模索しています。

今年度最初の企画展は大町桂月。飄逸洒脱な土佐人気質の一面

を持つ桂月の生き様、観光とも絡めた青森県の動きなどと本県を重ね、思うところも多くありました。「耐えて前進する女性の生き

方」の見事な描写の一連の作品が評価され、菊池寛賞という素晴らしいお土産を手に帰省された宮尾登美子さん。講演会での土佐

弁での挨拶とともに当館の「宮尾文学の世界」の部屋の意味の重さを再認識させられました。現企画展は「瀬戸内寂聴の世界」。

「人の一生は精々百年であるのに比べ、人がつくった芸術の命の長さは何と豊かであり、文学の世界を見ても、紫式部の『源氏物語』は千年もまだ生き続けている」という寂聴さんの芸術観は、

今の自分の座右の銘となっています。新米の素人館長だからこそその第一印象を大切に：

と思いつつ模索が続く今日この頃です。

「芸術の命と文学館」

元吉 喜志男



館長室から

朝の澄んだ冷氣の中、藤並の森の新緑の樹々を仰ぎ、風情ある石畳の道を通って文学館への通勤が始まつて一ヶ月余りが経過しました。この間、作家ご本人やゆかりの方々、文学館に係わつていただいている方々との出会いなど、日々、新鮮な体験をさせていただいています。

桂月の碑は、全国に八四基（現在も調査中です）建てられており、その半数が青森県にあります。うちの半数が青森県にあります。高知県内には、生誕地碑を入れると九基の碑があり①「高知県内の文学碑を訪ねる」文学散歩、②「高知市内の碑を中心に約七キロを歩く健脚コース」の文学散歩、そして高知観光の協力で、青森県蔵温泉を中心とした③「県外の文学碑を訪ねる」文学散歩です。いずれの参加者も、桂月との出会いを楽しんでくださいました。

星霜を超えて、本県の独特の風土が育んだ文学者達の足跡は実際に素晴らしいものがあります。「来館者に何を伝え、世代を超えて親しまれ、活用される文学館のあり方とは…？」特に、成長盛りの若い人達の「心の栄養」にとの思いもあり、県内の大学や高知市内の県立高校（八校）に出向き校長先生等との意見交換等も行い、自分なりにその命題の方向性を模索しています。

今年度最初の企画展は大町桂月。飄逸洒脱な土佐人気質の一面を持つ桂月の生き様、観光とも絡めた青森県の動きなどと本県を重ね、思うところが多くありました。「耐えて前進する女性の生き方」の見事な描写の一連の作品が評価され、菊池寛賞という素晴らしいお土産を手に帰省された宮尾登美子さん。講演会での土佐弁での挨拶とともに当館の「宮尾文学の世界」の部屋の意味の重さを再認識させられました。現企画展は「瀬戸内寂聴の世界」。

「人の一生は精々百年であるのに比べ、人がつくった芸術の命の長さは何と豊かであり、文学の世界を見ても、紫式部の『源氏物語』は千年もまだ生き続けている」という寂聴さんの芸術観は、今の自分の座右の銘となっています。新米の素人館長だからこそその第一印象を大切に：

◆宮尾登美子さん第五六回菊池寛賞受賞及び祝賀会を開催しました。

宮尾登美子さんの第五六回菊池寛賞受

賞の記念講演会及び祝賀会が四月十九日と二十日高知市で行われました。記念講演会には約七百人、祝賀会には約二百人の方々が出席され、盛大な会となりました。

菊池寛賞は、故菊池寛が日本文化の各

方面に遺した功績を記念するための賞で、昭和二七年に制定されました。同氏が生前、特に関係の深かつた文学、演劇、映画、新聞、放送、雑誌・出版、及び広く文化活動一般の分野において、その年度に最も清新かつ想像的な業績を上げた人、或いは、団体を対象に贈られている賞です。この菊池寛賞を、宮尾登美子さんが受賞されました。

作家生活六十年の宮尾さんが執筆された作品の中で、太宰治賞受賞の『櫂』、直木賞受賞の『一絃の琴』、文藝春秋読者賞受賞の『松風の家』、昨年出版された『錦』と、日本の伝統文化や歴史の中で力強く生きる女性の姿をテーマに、数々の名作を書き続いているという業績に対して贈られました。

記念講演会では、宮尾文学の特性について宮尾登美子さんと元・文藝春秋「臨時増刊」編集長、高橋一清さんの対談が行われ、ファンの皆さんには、宮尾文学の

魅力を再認識されていました。

昨年は、宮尾さん原作の「天璋院篤姫」がNHKの大河ドラマ「篤姫」として放送され、視聴率も二五%を超える空前の篤姫ブームが巻き起こり、全国各地で展覧会が開催されました。

高知県は、現在の文学界を代表す

るお一人である宮尾登美子さんから、四三一八枚の原稿用紙に書かれた「宮尾本 平家物語」(全四巻)など、大切な直筆資料をはじめ多数の資料を寄贈いただいております。昨年は「天璋院篤姫」関連の資料や、画家の小市美智子さんから寄贈いただいた「天璋院篤姫」の挿絵など、高知県が所蔵する宮尾資料が、姫路、東京、仙台、北海道と全国各地で開催の展覧会に出品され、好評を博しました。各会場には、熱心な宮尾ファンが駆け付け、一日の入場者が六千人を超えた展示会場もありました。

文学館では、今年六月から常設展示室で、小市美智子画「天璋院篤姫挿絵」展を開催します。

全三五二枚を一堂に紹介しますので、是非、「覗いただけだと思います。(学芸課／津田加須子)

常設展中止がね

吉井勇 (一八八六～一九六〇)

14

鏡川の河畔、月ノ瀬橋の東側一帯は、かつて築屋敷とよばれていました。

筆山や贋尾山を臨むこの地に、歌人

吉井勇が移り住んだのは昭和十二年

の秋。三年半に及ぶ猪野々・渓鬼荘

での孤独な隠棲と歌行脚の人生流離

を経て、生涯の伴侣となる孝子夫人

との「わびしいけれども静かに落ち

着いた生活」を営んだ土地です。勇が

この地に住んだのは僅か一年あまり

のことですが、のちに京都へ移つてか

らも、「形影相憐の情忘れがたし」と

築屋敷時代を懐かしみ、くり返し歌を

詠んでいます。

築屋敷の歌のなかでも、とりわけ

印象深いのは、庭先にあった石榴を

詠んだ連作です。もとの樹は

戦災で焼け、一帯は区画整理

されました。勇の

旧居のあつた一画に

は、奇しくも戦後に

なつて植えられた

石榴の一本が、いま

も色鮮やかな紅の花を咲かせています。

文学館には、築屋敷時代に作家中河与一宛てに書かれた勇の書簡も展示されています。勇の歌に思いを馳せながら、当時の面影の残る築屋敷の堤道を歩いてみてはいかがでしょうか。(高知高専准教授／細川光洋)

に、再生の花もありました。

石榴は、勇に

とつて「寂寥」の

実であるとともに

石榴の花でもありました。

文学館には、築屋敷時代に作家中河与一宛てに書かれた勇の書簡も展示されています。勇の歌に思いを馳せながら、当時の面影の残る築屋敷の堤道を歩いてみてはいかがでしょうか。(高知高専准教授／細川光洋)

に、再生の花もありました。

石榴は、勇に

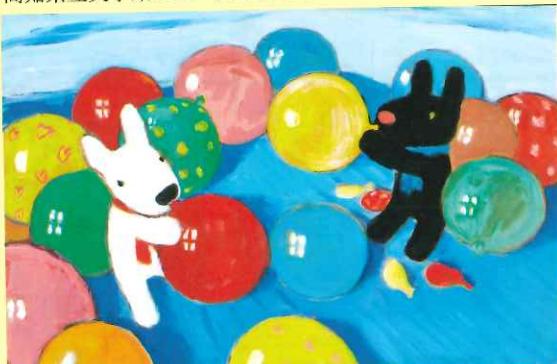
とつて「寂寥」の

実であるとともに

石榴の花でもありました。

展覧会予告

夏休みには、オシャレで楽しい 絵本の世界にご招待！



『リサとガスパールのマジック・ショー』 Le spectacle de magie.
Hachette Livre © 2004, Georg Hallensleben.

高知県立文学館では、小さい時から気軽に文学に触れていただこうと、毎年夏休み期間に子どもから大人まで楽しめる企画展を計画しています。

今年は、一九九九年にフランスで第一作が発表されて以来またたく間に世界中で愛されるようになつた絵本「リサとガスパール」シリーズと、同じ作者の作品である「ペネロペ」シリーズの魅力を貴重な資料とともに楽しんで紹介します。

人間が生まれて最初に出会う時間でもたちを喜ばせたい！」という作者の純粋な気持ちを感じられ、絵本を開くたびに心温まる豊かな時間をお楽しみください。

文学でもある「絵本」との新しい出会いをご期待ください。

(学芸課／福富陽子)



▲「天璋院篤姫」の挿絵 “家達と天璋院”
(新聞連載時)

常設展企画コーナー 「小市美智子寄贈記念展」 6月より開催！

寄贈された挿絵全てを一挙に展示し紹介します。また、小市さんが描かれた花、人物、動物等の水彩画の作品もあわせて紹介します。

(学芸課／森 香奈子)

当館にて調査中のものとしては、「生活綴り方教育」の小砂丘忠義の遺品や、田中貢太郎および「博浪沙」関係資料、そして吉井勇の書簡などがあげられます。平成十九年度以降追加分については、今後、「新収蔵資料展」などの機会を設けて公開することも、高知ゆかりの作家の顕彰に努めています。

このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

学芸員メモ

平成五年四月、文学館開設準備室が設置された頃の資料数は六百点。その後、寄贈・寄託を含む資料収集により、現在の所蔵総数は四万六千四百九十二点になります。

うち、平成二十年度の追加分は千九百三十二点。

なかでも寺田寅彦自筆原稿三点および小市美智子氏による『天璋院篤姫』挿絵原画三百五十二点の一括寄贈は、各方面からの注目をあびました。

また、展覧会開催をきっかけに、鹿持雅澄や大町桂月

関係資料の寄贈・寄託があり、それまでの所蔵資料とあわせ、研究を目的とした資料閲覧申請が県内外から寄せられています。

当館にて調査中のものとしては、「生活綴り方教育」の小砂丘忠義の遺品や、田中貢太郎および「博浪沙」

関係資料、そして吉井勇の書簡などがあげられます。

【転入】 文学館館長 新所属 元吉 喜志男	人事異動 溝渕 良一 旧所属 (観光部長) 元吉 喜志男
--------------------------------	--

受贈報告(平成二年二月～四月) 敬称略

▼高知福祉専門学校「おはなし下さいき」 高知福祉専門学校創立童話集No.19

▼市原麟一郎・「創作えほなし」 どろんのもへえ 市原

麟一郎作 ヒサクニヒコ絵 ポプラ社他 ▶横田晴光

編みすず書房 ▶山本清水・「詩誌」孤島 第二巻第

一号 山口利水編』他 ▶岡林増樹・「新訂」先祖の話

柳田國男著 石文社 ▶井沢浩一・セルボーンの博物誌

の鳥たち ギルバート・ホワイト原著 井沢浩一編訳

生態系トラスト協会 ▶高知女子大学大学院「高知女子大学大学院10周年記念 大学院修了論文要旨集」

▼京都大学・(良基・絶海・義滿等二座)和漢聯句譯注

京都大学国文学研究室・中国文学研究室編臨川書店

▼猪野幾久子「雲母会員エッセイ集 ひまわり第五集

「ひまわりの会」 ▶金澤典子・「所懸命」土佐に生き

て 依光裕 高知新聞社 ▶嶋岡農・龍馬追跡 嶋岡農

農著 新人物往来社 ▶野口雅澄・「雅澄百首」色紙

野口雅澄書画 ▶山崎瑞子・「鹿持雅澄書扁額」 ▶宮崎

陽子・「歌人像軸」

企画展
案内

瀬戸内寂聴の世界～生きることは愛すること

平成21年 5月12日(火)～6月21日(日)まで

午前9時～午後5時

(入館は午後4時半まで)

◆会場／高知県立文学館 2F企画展示室 ◆観覧料／一般500円(常設展含む)

昨年、徳島県立文学書道館の協力で開催したプレ企画に続き、今回は『源氏物語』関連資料や原稿、書簡、手作りの品々など、全国を巡回した貴重な資料をご本人から借用し、瀬戸内寂聴さんの人と文学の軌跡を紹介、その魅力に迫ります。(※会期中 休館日なし)



瀬戸内寂聴さん／徳島県立文学書道館提供

瀬戸内寂聴展のご案内をしています！ 詳細は2・3ページをご覧ください。

リサとガスパール&ペネロペ展

平成21年 7月4日(土)～8月31日(月) (※会期中 休館日なし)

会場：高知県立文学館 2F企画展示室

観覧料：600円(常設展含む) 午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)

1999年にフランスで第1作が発表されて以来、世界中で愛され、日本でも人気の高い絵本「リサとガスパール」シリーズ。本展では、同じ作者の作品である「ペネロペ」シリーズなどと併せて貴重な原画を中心に、魅力溢れる絵本の世界を紹介します。



『リサとガスパールのレストラン』
Gaspard et Lisa au restaurant, Hachette Livre
© 2004, Georg Hallensleben

6月29日(月)は展示入替のため、臨時休館とさせていただきます。

応募
問い合わせ先

〒781-8123

高知市高須三五三一
(財) 高知県文化財団内
高知県芸術祭文芸賞係 あて

TEL 088-866-8013

高知県芸術祭
文芸賞作品募集！

平成21年度高知県芸術祭では、
「第38回文芸賞」の作品を募集します。

公募作品部門

- 短編小説 一人一編(字詰原稿用紙で10枚以内)
- 詩 一人一編(400字詰原稿用紙で2枚以内)
- 短歌 一人3首以内
- 俳句 一人5句以内
- 川柳 一人5句以内

[選賞] 各部門ごとに優秀作品に賞状と副賞

[募集期間]

平成21年8月1日～

平成21年9月30日(当日消印有効)

[注意事項]

- 作品は未発表のもの
- 応募者は高知県在住者
- 全部門とも自由題
- 文字は楷書で読みやすく表記
- 短歌、俳句、川柳は官製ハガキで応募
- 原稿用紙の場合は、1面に1文字を記入
- 氏名(ペンネームがあれば併記)、現住所、電話番号、年齢、性別を明記
- 応募作品は返却しません
- ご記入いただく個人情報は、運営上の管理及び本人への連絡の用途に限り、利用いたします。ただし、入選作品については、在住市町村名及びお名前・年齢を公表します。
- 特別企画展のあるときは、料金が変わります。
- 20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。
- なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
- ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」
- 企画展示室、ホール、茶室

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

観覧料 一般350円

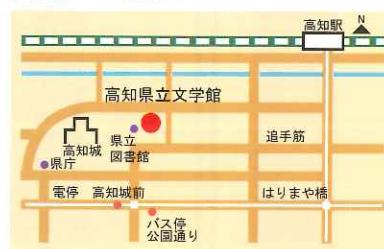
特別企画展のあるときは、料金が変わります。
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」

企画展示室、ホール、茶室

E-mail:bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/>

交通のご案内



- 高知駅馬空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
- JR高知駅下車徒歩20分
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分

高知県立
文学館

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857